
第 101 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CI Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時:2016 年 9 月 10 日(土) 10:30 - 12:30

場所:関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1002 教室

担当者: 岡あゆみ

「講読:La nueva gramática básica de la lengua española 第 2 部「語」2b 語類・語種
第 13 章「関係詞、疑問詞、感嘆詞」 pp. 125-135」

* Fecha y hora: sábado, 10 de septiembre de 2016, de 10:30 a 12:30

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1002

* Encargado: Ayumi, OKA

* Lectura de la "Nueva gramática básica de la lengua española: Capítulo 13 "Relativos, interrogativos y exclamativos," pp.124-135"

第 13 章「関係詞、疑問詞、感嘆詞」

p.125

◆関係詞、疑問詞、感嘆詞の特徴

関係詞

大半が無強勢。閉じた語クラス。前方照応指示。(たいてい節レベルの)統語機能。従属接続詞と類似。

- a) 前方照応…先行詞(文脈において先立って、もしくは、暗に示された表現)と同じ指示対象を持つ。関係詞の先行詞が明示されない場合もある。
- b) 統語機能…関係詞は通常、関係詞が導入する節内で、統語機能を遂行する。先行詞がその位置にあれば果たすのと同じ機能。
- c) 従属(させる)機能…関係詞は導入する節を従属させる。
先行詞が明示の場合、関係節は名詞修飾部として振る舞う(形容詞的従属節)。
先行詞が非明示の場合、先行詞なしの関係従属節(自由関係詞節)と呼ばれ、名詞・前置詞句に類似。

p.126

- d) 統語的な位置…関係詞は常に出現する節の始めに位置するが、しばしば、他の語もそこに位置し、共に関係詞句を形成する。

疑問詞と感嘆詞

強勢。導入する節においてほぼ常に、指示を表し、統語的機能を遂行する要素からなる閉じたクラスを構成。導入する節が述部に依存している場合、従属(させる)機能を持ち、間接的疑問文・感嘆文を作る。

- a) 指示…指示する能力を有するが、それ自体は前方照応的ではない。
- b) 統語機能…導入する節において、帰属する範疇と合う統語的機能を果たす。
- c) 従属(させる)機能…独立節でも従属節(間接的疑問文・感嘆文)でも出現可能。従属節では、従属させる役割

を果たし、名詞的従属節を作る。

- d) 統語的な位置…疑問詞は文頭でも統語的機能を果たす位置でも出現可能。疑問詞と感嘆詞は関係詞と類似する統語的句(例えば前置詞句)を構成。

p.127

関係詞、疑問詞、感嘆詞：類似点と相違点

- 類似点…関係詞と疑問詞・感嘆詞は非常に類似する2つの体系。事実上、同じ単位(unidad)で構成されている。2つの集合は交差的なクラスを成す。また、関係詞、疑問詞、感嘆詞は意味的特性も共有(人、モノ、場所、方法、時、数量・程度)。
 - 相違点
- a) 関係詞は、el cual を例外として、通常は無強勢。疑問詞・感嘆詞は常に強勢。
 - b) 関係詞は(明示的であれ、非明示的であれ)先行詞を持つ。疑問詞・感嘆詞は先行詞がない。
 - c) 疑問詞・感嘆詞は独立節でも出現可能。関係詞は常に従属節を導入。
 - d) 疑問詞・感嘆詞とともに作られる従属節は名詞節。名詞的先行詞を伴う関係従属節は形容詞的であり、先行詞が明示されていない場合は名詞・前置詞・副詞句を形成する。
 - e) 関係詞は主語が動詞に前置可能。疑問詞・感嘆詞は、一部の地域のスペイン語を除いて、前置不可能。

p.128

目録

- 関係詞の範疇…8つの単位(unidad)。ただし、形式的にもカテゴリー的にも変異形はある。cuyo と cuanto は性数の屈折あり。quien と cual は数変化あり。その他は不変。que、cuyo、quien、cuando、como、donde は一つの範疇にのみ、cual と cuanto は複数の範疇に属する。範疇：限定詞、代名詞、副詞。
- 疑問詞と感嘆詞の範疇…cuán はアメリカの一部の地域、文語。Cúyo は使用されなくなった。Cuál の感嘆文での副詞としての使用は擬古的。疑問詞と感嘆詞の用法に完全な合致は見られない。範疇：関係詞と同じ。

p.129

◆関係詞の記述

関係詞 QUE、QUIEN、CUAL、CUYO

形式的にも統語的にも意味的にも異なる特徴を持つ。

- **Que**…性数変化しない代名詞。有生物にも無生物にも言及可能。従属節において名詞句特有の機能を遂行する。定冠詞に先行されていて、先行詞が明示されている場合、いわゆる複合関係詞(el que、la que、lo que)。明示的な先行詞がある場合、複合関係詞に先行する前置詞は関係詞とともに、関係詞句を作り、従属節において統語的機能を果たす。前置詞はときおり省略可能。

p.130

先行詞と関係詞が同じ前置詞を伴う場合、口語では、関係詞の前の前置詞は省略される傾向があるが、省略しないことが望ましい。

- **Quien**…性変化する代名詞。性の屈折はないが、属詞との一致で性は表される。人、機関、擬人化されたモノに言及。動物名詞の擬人化は頻度が高い。代名詞として、名詞句特有の文脈(主語や目的語)に現れる。明示的な先行詞とともに用いられる場合は、形容詞的従属節を作る。先行詞なしで用いられる場合は、関係

詞の構造全体が自由関係詞節をなし、名詞句と同一と見なし得る。

前置詞に先行されると、前置詞が関係詞節全体に作用する場合(先行詞がなく自由関係詞節)と、関係詞にのみ作用する場合(明示的な先行詞がある)がある。(統語構造)

自由関係詞節においては、quien は el que やその変異形と交替可能。ただし、quien の節が haber や tener などの動詞に依存している場合は、これらの文脈では代名詞が不定の意味を持つので、交替不可能。

説明的な関係詞節を導入可能。限定的な関係詞節は、前置詞に先行される場合に導入可能。

p.131

- **Cual**…数の屈折あり。定冠詞に先行されてのみ使用される。定冠詞により性の変異形を表す。ほとんど限定詞としては使用されなくなったが、代名詞としてその意味は保持している。明示的な先行詞なしで関係詞節の先頭にくることはない。quien 同様に、前置詞とともにもしくはなしで、説明的な関係詞節に現れる。前置詞を伴う場合のみ限定的な従属節を導入する(前置詞は従属節内において関係詞が果たす役割に影響を及ぼす。)

ヨーロッパの口語スペイン語に特有の、lo cual の形式の使用はやめるよう。

- **Cuyo**…所有の意味持つ関係限定詞。性数の屈折あり。先行詞ではなく、影響を及ぼす(作用する)名詞と一致する。del cual や de la cual など(もしくはより散発的に del que や de la que)と交替可能。形式的でない使用域においてはほぼ使用されず、口語からはほぼ消え、いくつかの国ではジャーナリズム言語からも消えた。形式的でない使用域において、cuyo を que+所有詞・冠詞の組み合わせと言い換える顕著な傾向がみられる(quesuismo)。おすすめのオプション。

副詞的關係詞 (關係副詞)

- **特徴** …関係副詞は場所、時間、方法の意味を表す。名詞・副詞的先行詞を伴って限定・説明的関係詞節を作る。明示的な先行詞がない場合、自由関係詞節を導入し、関係節内において通常、状況補語の機能を遂行する。

p.132

- **Donde**…残っている唯一の場所の関係副詞は donde と複合形 adonde、a donde。先行詞は通常、空間的意味を持つが、それは比喩的な方法から作られることもある。

donde が場所を表さない先行詞とともに現れる表現は避けることを勧める。

余剰であるが、場所を表すための組み合わせ en donde は正しいものとする。軌道の目的地を示すために、donde、adonde、a donde は交替する。場所の意味での adonde や a donde の使用は正当と認められない。

- **Cuando**…おおよそ en el tiempo や en el momento en que に相当する。明示的な先行詞を伴って使用されるよりも自由関係節の先頭で使用される。しかし、先行詞の存在は説明的関係詞節においては普通である。

- **Como**…特に自由関係詞節の先頭にくる。明示的な先行詞を伴う関係詞節においては、先行詞は通常 forma、manera、modo などの名詞や así、tal、igual などの副詞に限られる。先行詞は(前に来る)節である場合もある。

p.133

關係數量詞 CUANTO

(先行詞と考える)tanto や todo によって表されるのと同等の量を表す。性数変化し、限定詞や代名詞になりうる。不変化形としては副詞。(cuanto より使用される)定冠詞+que と同じ意味を表す。

不特定を表す関係詞

関係詞と文法化された動詞形である-quiera からなる複合語。quienquiera、comoquiera、dondequiera (doquiera)、adondequiera や cuandoquiera が範列を構成する。限定的な関係詞節が続く場合、cualquiera も(他の場合は関係詞ではない)。通常、同定されない人やモノを示し、その意味はおおよそ sea quien sea や sea como sea などに相当する。

これらの複合語を構成する-quiera は離して書かない(dondequiera)。2語で書く場合(donde quiera)は、自由関係詞節を導入する関係副詞に先行される querer の動詞形に相当する。

◆疑問詞と感嘆詞の記述

疑問詞と感嘆詞 QUÉ、QUIÉN、CUÁL

対応する関係詞形の場合と同様に、各々独自の特徴を持つ。

- **Qué**…形態論的に不変化。疑問構文においては、限定詞や代名詞になりうる。感嘆表現においては、代名詞的用法は多くないが、限定詞や副詞としては使用される。
- **Quién**…人に言及する代名詞。数の屈折あり。性の屈折はないが、属詞との一致で性は表される。
- **Cuál**…代名詞や限定詞でありうる。数の屈折のみある。疑問表現において、同じ種類の別のものの中から一つの存在物を同定する。部分を表す補語をとることができる。語彙化された決まり文句としては残っているが、感嘆詞的な用法はほぼ失われている。

p.134

方言を源とする形式 **cuálo** と **cuála** は俗語とされる。

疑問・感嘆副詞

- **Dónde**…場所の名詞や副詞と代替可能。前置詞(de、desde、por、a、hacia、hasta、para)とともに使用され、lugar de donde、lugar por donde、lugar a donde の意味を表す。対応する関係詞同様に、dónde は、場所を表すために en dónde と、目的地を表すために adónde や a dónde と交替する。

副詞 adónde が方向や目的地を示す別の前置に先行されるような余剰的な組み合わせは避けるべき。

- **Cuándo**…多くの側面において対応する関係詞 cuando と類似するが、動詞時制をより容易に許容する点で異なり、未来時制や現在完了形とともに使用可能。副詞 cuando の場合は非常に制限的。
- **Cómo**…通常、やり方や方法の意味を表す。原因の意味を持つことも可能(特に否定疑問表現において明白)。感嘆副詞としては、通常 cuánto に近い意味で量を表す。

como もしくは cómo を使用する際、不確定となる場合がある。Ya verás {como / cómo} se queja において、従属節は平叙の名詞節と理解可能で、アクセントなしで使用されるが(que とほぼ同等)、間接的疑問表現とも理解可能。2つのオプションが可能。

疑問・感嘆数量詞 CUÁNTO

限定詞、代名詞、副詞として使用される。語尾消失した形 cuán は形容詞や副詞の前で使用され、高尚な使用域において感嘆表現を作る。疑問表現における cuán の使用はアメリカスペイン語において今日若干頻度が高い。